

名家連ニュース

令和元年5月20日(月)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 614号

第21回 名家連定期総会概要



主催者挨拶/堀田 明/名家連会長



議長吉戸瓊子氏
昭和家族会会長



来賓挨拶/名古屋市健康福祉局
障害福祉部障害企画課主幹/高倉敦様



来賓挨拶/愛家連会長/高柳進一様

令和元年5月18日(土)、名古屋市総合社会福祉会館7階大会議室/13家族会/参加者44名/小島理事の司会で開催されました。
《堀田会長挨拶》息子の状況に触れながら「地域移行・地域定着支援」「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の必要性を強調。名古屋市の家族ピア相談事業の面会相談者数が年々増加し、名家連財政から約18万円補填しなければならなかった現状を述べつつ「今日までの活動を今後も継続・発展させていきたい」と力強く挨拶しました。
《来賓/高倉主幹挨拶》「第4次障害者基本計画」「障害者差別解消条例」の施行紹介。皆さんにアンケートをお願いして予算化した住宅環境整備事業及び各区の福祉サービス窓口の三障害一元化も皆さんの要望を受けて「福祉課の隣に精神の席を設けてスタートした」ことを報告。「この20年間、皆さんと同じ方向を向いて一緒に歩いていることを実感している」「役員会/代表者会議に参加し、皆さんから元気ももらっている」と挨拶されました。
《来賓/高柳愛家連会長挨拶》自殺問題、差別問題、医療費助成や交通運賃割引について県レベルでも取り組んでいきたい。今年は「みんなねっと」の全国大会を愛知県刈谷市で開催。現在の準備状況の概要報告と大会成功に向けた協力を呼びかけました。

議長に吉戸瓊子氏(昭和家族会会長)を選出。総会成立宣言、議事録署名人(堀田会長、池山副会長)書記(末次副会長)の指名承認。第1号議案(平成30年度事業報告/堀田会長)第2号議案(決算報告野原理事/赤羽監査委員)提案。相談事業について質問があり会長の答弁を含め承認された。第3号議案と第4号議案(令和元年度事業計画案と予算案/堀田会長)を一括提案し全会一致で承認されました。



蔭山正子先生の記念講演概要

～当事者と家族が分かり合うための研究～

先生には、「この研究に取り組むまでの経過」「当事者と親の相互理解学習プログラム」について、動画を交えてお話しして頂きました。



▷ 地域精神保健福祉機構(コンボ)の事業で、2つの家族会でプログラムを実施。家族による家族学習会のプログラムの原型(埼玉県の「もくせい家族会方式」)をつくり、家族学習会に関わってきた。

蔭山先生の記念講演記事 次ページに続く

▷ この過程で、本音で話せる関係性、学習し変容する家族の力、信頼し合い活動する楽しさを知り「私は、家族会の方のお陰で研究者として、また、人として育てられ、成長できた」「アンケート調査、インタビュー調査で6割の家族が暴力を体験している事実が明らかになった」「公表によるリスク、業界の混乱/批判/圧力に葛藤したが、事実には蓋をしては解決できない」「何があっても逃げない、家族/当事者が分かり合える関係性を研究者として追及していく」ことを決断した経緯を紹介されました。



▷ 先生は、当事者と家族の相互理解学習プログラム中で、暴力を受けた親も精神的不健康になり、親子関係が悪化していく要因として「親子の認識のずれ」を指摘し、その内容を判りやすく解説されました。

《当事者の辛さ》「人生の挫折感/希望の喪失感」「やり場のない苦しみ/生きづらさ」、「妄想/被害意識」「言葉でうまく表現/伝えられない」「衝動性をコントロールできない」などの病気の症状から「認知の歪み」がひどくなり、興奮/怒り/爆発⇒家族は疲弊/抑うつ/PTSD⇒親子関係の悪循環サイクルへ。

《当事者の親への反発心》当事者から見ると、親の「過干渉」「高圧的」「強権」「厳格」「教育ママ」「支配」「感情の逆なで」「無理解」「世間体」「働け」などの言動に反発心が起きるといふ。

《爆発寸前の子の気持ち》辛くて生きていけない、自分の辛さを受け入れてほしい、期待に応えられない
《予先が親になるのはなぜか?》親は頼れる、切っても切れない、何をしても許される…という存在。

《なぜ爆発するのか》親子とも我慢してストレスを溜め込んでいる。些細なことでもきっかけになる。

《爆発直後の対応/当事者の気持ち》「大丈夫?」と心配してほしい。30分か1時間くらいそっとしておいてほしい。次に顔を合わせたとき、「さっきはどうしたの?」と聞いてほしい。

《暴力を受けた親のダメージ》子と自然に会話することが難しくなり本音で話すことができなくなる。親も子も自分を責めて苦しみの悪循環に陥っていく。《親》育て方が悪かったのでは…自分さえ我慢すれば…など 《子》申し訳ない、普通じゃなくてごめん、期待に応えられない後ろめたさ…など

《解決策/家庭に風邪穴をあける/溜め込まない/開かれた親子関係》

○親のリカバリーは子のリカバリーに先立つ /まず親が外と繋がる

○外に出られない…第三者に家庭に入ってもらう(訪問看護など)

○支援者/社会に繋がる(支援者/医師/デイケア/地活利用…受容/感謝/希望の再発見)

○親子の開かれた会話…愚痴を聴く、大人扱いする、過干渉しない。

日頃から適度な距離を保つ…それぞれがストレス発散/思い

を吐き出す場/趣味、家族会、当事者会などと繋がるのが大切

《依存症の側面/親子別居/爆発の意味》

○爆発は別居など依存関係を断つチャンス(責任感/成長を育む)

○爆発は「生き延び行動」「生きる力を取り戻していく過程」「行き詰った現状を変える力」「いい子の鎧を脱いで成長する過程」

《子から親へ、子から子へのメッセージ紹介》

○親も子も変わろうと無理をせずありのままでもよい、状態がよくなれば自然に分り合える関係になる

○自分を認めてくれて、理解してくれて、辛抱強く待っていてくれて感謝、親も人生を楽しんでほしい

○暴力は後で後悔、引籠りが必要な時期もある、繋がろう、自分を救うのは自分、自分を受け入れる

《司会者/小島理事の挨拶》先生の講演で改めて親子関係を問い直していく機会となりました。私自身も

今日の学びをこれからの生活に活かしていきます。ありがとうございました。(文責/事務局/堀場

《講演では、当事者が体験を話している動画が使われ、秋に無料公開の予定であることも紹介されました》

参加者59名、フロアからの質問に笑顔で丁寧に応える先生

